

第 35 期新潟市社会教育委員会議 会議概要

第 7 回社会教育委員会議	
開催日時	令和 5 年 7 月 20 日 (木) 午後 3 時～午後 5 時
会 場	クロスパルにいがた 4 階 403・404 講座室
出席者	<p>【社会教育委員】 雲尾 周、佐藤 裕紀、小倉 壮平、角野 仁美、司山 園美、 白神 道子、平山 智康、竹田 暢美 計 8 名、 ※敬称略</p> <p>【事務局】 地域教育推進課長、中央公民館長、中央図書館長、 生涯学習センター所長、生涯学習センター職員 4 名 計 8 名</p>
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 令和 5 年度指定都市社会教育主管課長会議及び社会教育委員連絡協議会 (WEB 開催) 参加報告 ○報告資料 1-1～2 に基づき、事務局より令和 5 年度指定都市社会教育主管課長会議について説明しました。 ○報告資料 1-3～4 に基づき、雲尾議長と佐藤副議長より参加報告を行いました。 【主な質問・意見等】 ・報告資料 1-1～2 について、割愛しての配布ではなく、他の協議題も資料としていただきたい。</p> <p>(2) 令和 5 年度社会教育委員等研修会 参加報告 ○報告資料 2-1～4 に基づき、参加した 2 名の委員より参加報告を行いました。 (代表報告：竹田委員、白神委員、紙面報告：山岸委員、清水委員) 【主な質問・意見等】 ・座談会で話のあった「地元に戻元できる企業の育成が不可欠」とは具体的にどのような話であったか。 ⇒自分の会社の利益だけでなく、いかに地域と関わるか、貢献できるかを考えることができる企業の育成が不可欠という話であった。行政だけでは限界があるため、民間の力を借りて働きかけることが必要。</p> <p>(3) 令和 4 年度社会教育関連事業実績報告について ○報告資料 3 に基づき、事務局より令和 4 年度社会教育関連事業実績について説明しました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。</p> <p>(4) 社会教育委員会議日程 ○報告資料 4 に基づき、事務局より社会教育委員会議日程について説明しました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。</p> <p>3 意見交換</p> <p>(1) 第 35 期社会教育委員会議の今後の見通しについて ○協議資料 1 に基づき、事務局より第 35 期社会教育委員会議の今後の見通しについ</p>

	<p>てについて説明しました。</p> <p><b>【主な質問・意見等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップの日程は新潟県社会教育研究大会胎内大会を考慮して検討する必要がある。</li> <li>・ワークショップの内容は第 35 期社会教育委員会議で作成する建議に反映することか。</li> </ul> <p>⇒建議作成後、その内容を発表するだけでなく関係者から意見をもらいたいという声があり、3 月にワークショップを開催することを提案した。</p> <p>⇒検討している日程では、建議作成後にワークショップを行うため、いただいた意見を生かせないまま第 35 期社会教育委員会議の満期を迎えてしまう。この日程で行うのであれば、いただいた意見を第 36 期社教育委員会議に反映させる方法もある。</p> <p>⇒今までの建議を受け、行政が何をしてくれたのか不透明であるとのこと意見をいただいている。事務局としては、建議の内容を新潟市の施策に繋げるために、広く関係者へ周知したいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・胎内での発表に向けて 9 月頃にワークショップを開催できないか。リサーチのためにこども未来部と意見交換を行いたい。</li> <li>・社会教育委員会議第 9 回、第 10 回会議の日程を前倒しすれば、集まる回数を増やすことなく行えるのではないか。</li> <li>・建議を作成するためのリサーチとしてワークショップを行うことも必要だと思う。</li> <li>・第 35 期社会教育委員会議で作成する建議は実現可能な形まで落とし込むのではなく、こだわった内容でいいのではないか。</li> <li>・ワークショップではなく、プレゼンテーションのような形で建議の内容を関係者に発表するのが良い。建議の内容をみた行政職員がどう受け取って新潟市の施策に反映してくれるかだと思う。</li> <li>・当初の予定どおり、3 月に別日でプレゼンテーションのような形で建議を行うことで合意した。</li> </ul> <p>(2) 各グループの調査研究活動について</p> <p>○協議資料 2~3 に基づき、中央公民館より公民館利用団体の交流状況について説明しました。</p> <p><b>【主な質問・意見等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区公民館を超えた新潟市全体の公民館利用団体同士の交流はないとのことだが、各区の中でも交流はないのか。</li> </ul> <p>⇒もしかすると行っているかもしれないが、把握している限りは無い。</p> <p>○令和 5 年度新潟県社会教育研究大会胎内大会の発表内容と分担について意見交換を行いました。</p> <p><b>【主な質問・意見等】</b></p> <p>○「子どもと若者の参画を促すネットワーク」グループ</p> <p>&lt;社会教育施設の活用について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3 パターンが挙げられると思う（①社会教育施設に小学生と中学生を集める、②小学校に中学生を集める、③中学校に小学生を集める）。</li> <li>・場所を優先するか、人を優先するかによって社会教育施設の活用の仕方が変わると思う。両方の面から検討するのが良い。</li> </ul> <p>&lt;地域の困りごと解決のための仕組みについて&gt;</p>
--	---

<p>内 容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 岐阜県飛騨市では、「ヒダスケ」という地域の困りごとを可視化し、市内・市外に関わらずお手伝いをしてくれる人を募集するサイトがある。</li> <li>・ これからの総合学習は、学校がボランティアを希望する生徒に活動場所を教えあげたり、割り振ったりできるようになると良い。また、ボランティアをするうえで必要な知識を教育できるとよい。</li> <li>・ 今まで地域コーディネーターが地域の困りごとを可視化していたが、今後は地域コーディネーターだけに頼らず、地域の困りごとを可視化できる仕組みがあるとよい。</li> </ul> <p>&lt;持続可能なコミュニティづくりについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 始めは地域の困りごとの解決をお手伝いしたい子がボランティアに参加し、いつか全ての子どもが関われるようになると良い。</li> <li>・ 本来、学校の授業や部活動を通して地域とのかかわりを練習し、社会に出るという仕組みだったと思うが、今は部活動の時間も少なくなり、そこまでできなくなってしまった。</li> <li>・ 子どもの頃から地域とのかかわりがあると、地域の青年団や消防団などにも抵抗なく加入できると思う。</li> </ul> <p>&lt;今後について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新潟市の生涯学習センターで行っているボランティアバンクが、地域の困りごとを解決するような、地域とのかかわりに繋がらないのはなぜか、分析が必要。</li> <li>・ 子どもたちを取り巻く現状分析が必要。子どもたちが参画できる機会を作っても、参加しないのであれば、その原因を取り除かなければならない。</li> <li>・ 新潟市こども未来部が、子どもたちの社会への参画についてどのように取り組んでいるのか、どのように考えているのか、意見交換したい。</li> </ul> <p>○「共生社会の実現に向けた学びの在り方と取組のネットワーク」グループ</p> <p>&lt;横の繋がりをコーディネートすることについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新潟市は各地区公民館を超えた交流がない。障がい者も外国籍の方も「横の繋がりが」が必要だと思う。</li> <li>・ 各社会教育施設の利用団体が繋がりを持てるよう、直接ニーズを聞き、人を繋げ、コーディネートできる仕組みがあると良い。</li> </ul> <p>&lt;主体的なかかわりについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国籍の方が、支援される側でなく主体（主役）となって企画し実施する側になる機会が、社会教育施設にあると良い。</li> <li>・ 障がい者の方が自分で収入を得て生活していけるよう、活躍できる場を障がい者の方と民間企業や行政が、一緒になって創造することが大事。新潟市としてどのように関ることができるか検討が必要である。</li> </ul> <p>&lt;交流の場の創造について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障がい者の支援をしている団体同士のみでなく、全く関係のない団体も含めて交流し、コラボレーションできると良い。</li> <li>・ ただの作品発表会ではなく、自分たちが困っていることを共有できるような情報交換の場であることが重要。</li> <li>・ 上手く交流している地域では、中間の支援組織が上手に機能しているようだ。</li> </ul>
------------	--

第 35 期新潟市社会教育委員会議 会議概要

	<p>&lt;コーディネートできる人を育成することについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新潟市で人を繋げるコーディネートができていないのは、なぜか。人材を育成できる何かがあればよいのか。</li> <li>・社会教育施設で支援を受けていた人たちが、その後支援する側に回るようになることが重要である。</li> </ul> <p>4 その他 ○第 8 回の会議について、令和 5 年 10 月 12 日（木）午後 3 時から 5 時までクロス パルにいがたで開催することを確認しました。</p> <p>5 閉会</p>
<p>傍聴者</p>	<p>0 名</p>
<p>会議資料等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 35 期新潟市社会教育委員会議（第 7 回）次第</li> <li>・報告資料 1-1～4 令和 5 年度指定都市社会教育主管課長会議及び社会教育委員連絡協議会（WEB 開催）報告</li> <li>・報告資料 2-1～4 令和 5 年度社会教育委員等研修会参加報告</li> <li>・報告資料 3 令和 4 年度社会教育関連事業実績報告について</li> <li>・報告資料 4 社会教育委員会議日程</li> <li>・協議資料 1 第 35 期社会教育委員会議の今後の見通しについて</li> <li>・協議資料 2 公民館利用団体の交流状況一覧</li> <li>・協議資料 3 公民館の利用団体協議会の有無および、その他交流を行っている団体の状況</li> </ul>